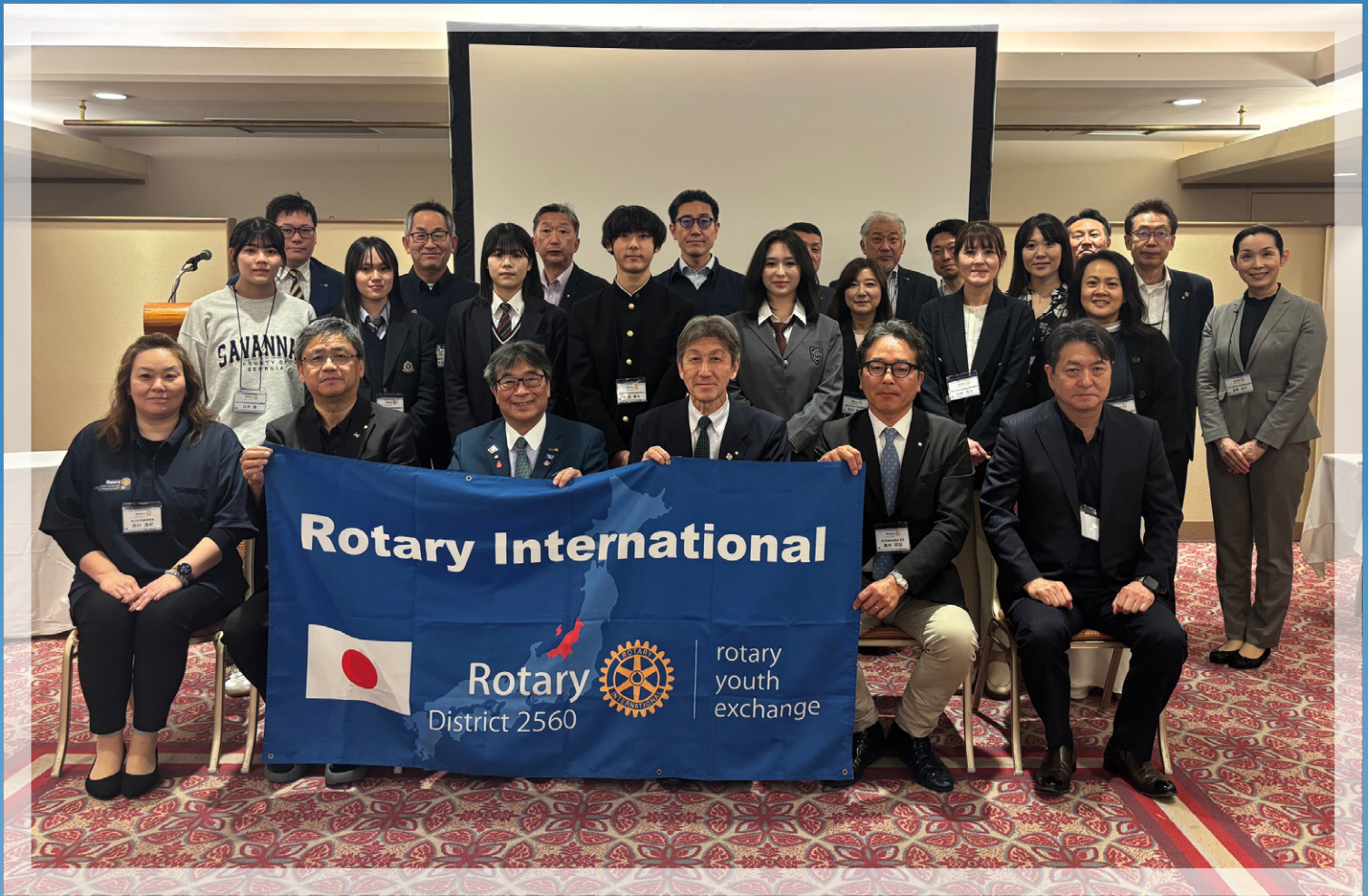




# ガバナー月信

vol.11 May / 2026



## 月信5月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② インターアクト国際交流事業
- ③ スキー国際交流体験会
- ④ 富山年度クラブ会長エレクト  
ラーニングセミナー
- ⑤ 米山・財団感謝の集い午餐会
- ⑥ 吉田 RC 創立 40 周年記念式典
- ⑦ 財団委員会通信
- ⑧ 地区主要行事予定 (5月・6月)
- ⑨ 新入会員紹介・訃報
- ⑩ コーディネーターニュース
- ⑪ ハイライトよねやま

Rotary  
第2560地区



よいことの  
ために  
手を取りあおう

国際ロータリー第 2560 地区  
2025-26 年度

**室賀ガバナー事務所**

〒951-8061 新潟市中央区西堀通七番町 1574  
ホテルイタリア軒 B1  
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



## ガバナーメッセージ

2025-26 年度ガバナー

**室賀 信宏** (白根 RC)

今月は青少年奉仕月間です。去る4月19日、ホテルイタリア軒にて第3回青少年交換オリエンテーションが開催されました。本年度は長期交換（1年交換）2名と短期交換（夏季交換）2名の交換予定となっております。少し寂しい人数となっておりますが、アメリカ、ドイツ、カナダへの派遣予定です。近年では2560地区のみならず日本各地での受け入れ家庭（ホストファミリー）の確保が困難な状況に直面しております。私の家庭では2回の長期交換学生のホストファミリーの経験があります。また、白根RCでは多数回、夏季交換のホストクラブの経験があります。いずれもロータリアンのみの奉仕活動ではなく、パートナー及び家族や学校などの協力参加がなければできません。この活動を通じいわゆるロータリーファミリーとともに奉仕活動ができるということです。すなわち多くの方々がロータリー活動に参加し、ロータリーに理解をいただける良い機会となりえます。まだ青少年交換の参加経験がないクラブは積極的に参加してみてもいかがでしょうか？

また、先月は2560地区インターアクト海外研修が行われました。この交流事業は国際ロータリー第3470地区 三重中央ロータリークラブとの間で1993年より長年にわたり継続されてまいりました。当時はまだ2560地区は群馬県、新潟県の2県の時代です。途中COVID-19の世界的なパンデミックにより中止を余儀なくされましたが、昨年度、国際ロータリー第2840との交換が再開されました。残念ながら諸般の事情により現在は国際ロータリー第2560と隔年の実施となっております。今まで多くの高校生がこの事業を通じ国際的な感覚を少なからずとも身に着け、台湾と日本との友好親善に寄与してまいりました。また、これを機会とし、心と心の交流、そして素晴らしい新たな友人を作ることができたのではないのでしょうか。この活動も多くの方々にロータリーをご理解いただくよい機会となっております。今後ともメンバー皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。



## インターアクト台湾研修旅行を終えて

インターアクト委員会  
委員長

松原 幸人 (長岡 RC)

3月26日～29日にかけて台湾との交流事業である研修旅行に行ってきました。

本事業は第2840地区（群馬）との共同事業として1993年より始まりましたが、コロナウイルスの爆発的な感染力により、2020年から中止されており、昨年より再開されました。昨年は第2840地区で行われ、今年は第2560地区が行いました。

今年度はインターアクトの生徒16名と引率、ロータリアン9名の総勢25名での参加となりました。訪問先は新北市三重高級中学校、ホストクラブは三重中央ロータークラブです。

第2560地区の生徒は、新潟県全域10校のインターアクトクラブが対象となっており、生徒同士の交流も本事業で初めてという状況でしたが、初めて集まったオリエンテーションですぐに仲良くなり、その後の連絡もグループLINEでスムーズに行っており、素晴らしいと思いました。

海外旅行も初めてという生徒が何人かいました。初めての海外、台湾という文化、言語に触れ大きな刺激を受けたと思います。ホームステイ後の感想報告を6名の生徒に発表していただきました。皆さん行く前は不安でいっぱいという気持ちだったようですが、ホームステイでの触れ合いによって台湾と受入ファミリーが大好きになったと言っていました。特に台湾のお土産文化には驚いたようで、スーツケースに入らないほどのお土産をいただき、びっくりしたようです。盛大な歓待を受け感激していました。さよならパーティーが終わり解散となるのですが、別れるのが悲しく涙をながします。なかなか帰りのバスに乗車できません、この光景を見ると本事業のやりがい伝わります。

4月25日、26日には、台湾生徒が日本に訪問し、日本でのホームステイを体験します。

皆さん、台湾で受けた恩をどう返そうかと思案中です。更なる交流を深め今後の糧になることを支援したいと願います。





## スキー国際交流体験会

青少年奉仕委員会  
委員

乗木 邦友 (新井妙高 RC)

2025年3月25日(水)～27日(金)の3日間、国立妙高青少年自然の家、妙高杉ノ原スキー場を舞台に2025-26スキー国際交流体験会を開催いたしました。

スキー国際交流体験会は、新井妙高ロータリークラブ会員の佐藤明臣さんが長年、全国の高専、インターアクトクラブ、交換留学生が参加する国際交流支援事業として20年間、妙高杉ノ原スキー場で開催していました。その歴史ある事業を引き継ぐ形で、昨年より青少年奉仕委員会が主催となり開催しております。

25日の11時より妙高青少年自然の家で開所式を行い、昼食後にスノーシューハイクツアーを行いました。天候は曇り、妙高青少年自然の家の周囲を5km、2時間30分のツアーは、雪原の中をゆっくり歩き、春を待つ木々の息づかいを感じ、動物の足跡を探し、野鳥や雪虫を観察し、インストラクターの方からレクチャーを受けながら妙高の自然に触れ学ぶ体験となりました。夕食後は、雪道を歩くおばあさんが様々な人と行き交う様子を描いた心温まる物語「雪の一本道」と、戦国時代、関山神社の山伏と女性と幼子にまつわる、妙高青少年自然の家の近くに実在する岩をテーマにした物語「赤児岩(ぼばいわ)のはなし」を、紙芝居を使いながら語り部の方にお話しを頂き、妙高地域や雪国にまつわる民話・昔話を学び1日目を終えました。

26日は今回の体験会のメインでもありますスキー体験初日、生憎の雨となりましたが参加されたロータリアン指導の下にスタート。スキー初体験の交換留学生でしたので不安と緊張の中でしたが、転びながらも滑れば滑るほど上達し、午前中までにゴンドラ、リフトを楽に乗りこなし、視界が悪い濃霧の中でしたが、リフトが止まる時間までフルに一日楽しく滑りました。夕食後は、参加者とロータリアンとの国際交流例会を実施し、2日間の体験での学びや交流を楽しく共有しました。

27日は3日間の中でも天候に恵まれ、晴天のもと視界も良好な絶好のコンディションとなりました。滑りにも余裕が感じられ、スキーに慣れ楽しみ「まだスキーを滑りたい」「来年も参加したい」「4年後のオリンピックを目指したい！」の声を聴き、3日間が充実した時間だった事が伝わってきました。

この交流体験会は、日本の自然と文化を国際的に発信し共有することができ、日本の魅力を再発見し、相互の理解や絆を深めることができます。今回の反省を踏まえ、次年度もスキー国際交流体験会を開催予定ですので、沢山の方に是非ご参加いただきたいと思います。





# ロータリーで人生をより充実させよう 2026-27年度PELS開催報告

2026-27 年度 PELS 実行委員長  
**阿部 淳** (雪国魚沼 RC)

去る 2026 年 3 月 28 日、南魚沼市民会館において「2026-27 年度クラブ会長エレクトラーニングセミナー (PELS)」を開催いたしました。ホストクラブである雪国魚沼ロータリークラブをはじめ、コ・ホスト各クラブの皆様の多大なるご協力により、県内各地から多くの会長・幹事エレクトや地区役員の皆様をお迎えできたことに厚く御礼申し上げます。

本年度より、従来の「PETS」から「PELS」へと名称が変更されました。これは、一方的な講義形式の「トレーニング」から、ディスカッションを通じた会員の主導的な「ラーニング (学び)」へと舵を切ることを意味しています。オンラインカ・ハキーム・ババロラ RI 会長エレクトが掲げるテーマ「持続可能なインパクトを生み出そう」と、富山洋ガバナーエレクトの地区目標「ロータリーで人生をより充実させよう」を基軸に、次年度の指針を固める熱意に満ちた一日となりました。

プログラムでは、富山ガバナーエレクトによる地区運営方針の発表や、高橋秀樹地区ラーニングファシリテーターによって「会長幹事の皆さんに考えていただきたいこと」というテーマでラーニングが行われました。また、分区ごとの分科会では、各クラブの会長・幹事エレクトが具体的な目標策定に向けた活発な意見交換を行いました。

運営面では、地球環境保護と経費削減を考慮したプログラムのペーパーレス化を継続するとともに、参加者の時間的・金銭的負担を軽減したいというガバナーエレクトの意向により、懇親会をあえて開催しないという新たな試みも実施いたしました。本セミナーでの学びが各クラブに持ち帰られ、地域社会に「持続可能なインパクト」をもたらす原動力となることを心より祈念しております。







## 米山・財団感謝の集い午餐会

米山記念奨学委員会  
委員

伊藤 博之 (村松 RC)

令和8年4月4日(土)、ホテルイタリア軒において「2025-26年度第2560地区 米山・財団感謝の集い午餐会」が開催されました。

室賀ガバナー、富山ガバナーエレクトをはじめ13名のメジャードナー、メジャードナーに準ずる方々にご参加いただき両委員会へのご寄付とご理解に深く感謝し、室賀ガバナーから感謝状を贈呈されました。

授与者代表としてARRFC、パストガバナー、2010-12年度米山記念奨学委員長、2019-22年度ロータリー財団委員長である新保清久様より謝辞を頂戴いたしました。続いて、(公財)ロータリー米山記念奨学会理事である高橋秀樹様より米山奨学会の現況についてお話をいただきました。

懇親会においては11名の米山記念奨学生からもご参加いただき代表としての石人月さんと呉鳴さんから米山記念奨学生になり学んだことや想いをお話いただきました。お二人とも米山記念奨学生である事に感謝と誇りを持ち、将来は日本と母国の架け橋になれるように学業に励んでいるとの事でした。

参加された皆さんも奨学金を受け取っている学生の生の声に触れ、このような機会も大切なことだと改めて実感いたしました。また、ロータリアンと奨学生の交流によりロータリーへの想いを新たにする機会となりました。今後も財団・米山に對しまして、ご理解ご支援を賜りますようお願いを申し上げ、報告とさせていただきます。







## 吉田 RC 創立 40 周年記念式典

吉田ロータリークラブ  
会長  
**藤田 秀典**

吉田ロータリークラブは1986年（昭和61年）39名のチャーターメンバーにより設立しました。去る4月11日（土）燕三条ワシントンホテルを会場に創立40周年記念式典を開催し、燕市長佐野大輔様、国際ロータリー第2560地区ガバナー室賀信宏様はじめ、ご来賓各位並びに地区内より多数のロータリアンのご列席をいただきました。

歓迎のあいさつの中で、『目のご不自由な方が横断歩道を渡ろうと信号のところに立っています。その時に、視覚障がい者の方が安全に渡ることのできる“白杖”をわたして、「どうぞ」と言うのではなく、そっと手を差し伸べて一緒に渡るのがロータリーです』と聞いたことがあります。このようにお話しさせていただきました。

ロータリーの理念であります「奉仕の精神」は永遠であっても、具現化することは地域や時代によって変化をして行くものであります。しかし、その催しが自分たちの為であってはならないと思っています。この度、アトラクションとして「日本ロータリーの父米山梅吉ものがたり」を講談師五代目宝井琴鶴様よりご講談いただきました。迫力ある語りと釈台をたたくパパンという張り扇の小気味よさに、会場は心地よい熱気に包まれていたように感じました。講談界の人間国宝であります一龍齋貞水師の言葉に「偉大なる未完成で終わりたい」という言葉があるそうです。

現在では会員22名という小規模クラブですが、周年事業を通して一層の団結が図られたように思っています。

当日、会場にお運びくださいましたすべての人に、また陰ながらご支援くださいました方々に感謝を申し上げ、御礼並びに御報告とさせていただきます。



# 「世界でよいことをしよう」 財団委員会通信

## 地区補助金における「継続事業」について — 声明文からの「問いかけ」 —

ロータリー財団委員会

副委員長 武田 真 (水原 RC)

4月15日に2026-27年度の地区補助金申請の審査会が実施され、多くのクラブより地域にとって必要な奉仕プロジェクト実現のための資源である地区補助金を次年度もご活用いただくことになりました。そのなかで、運用を開始した継続事業ガイドラインの継続事業に対する制限理由を社会奉仕の基本原則の声明文からご説明させていただきます。

本来、ロータリーの補助金制度はロータリー章典に定められている社会奉仕の基本原則に基づいて制度設計されています。具体的にはロータリー章典第8条第40節「社会奉仕の基本原則」における社会奉仕に関する1923年の声明文及び1992年の声明文です。1923年の声明文では「いずれのロータリークラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援することが望ましい。この奉仕活動は地域社会で本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。」とし、1992年の声明文には「適切であれば、地元地域社会、奉仕団体、その他諸団体に、継続中のプロジェクトを委譲すること。そうすれば、ロータリークラブは新プロジェクトに携わることが可能となる。」と明記されています。前者声明文から今日まで103年という時の経過がありますが、ロータリーの社会奉仕の基本原則は今も色褪せることはありません。特に注目されることはクラブで実施される事業が「地域社会で本当に必要としている」事業であるのか、「クラブ会員の一致した協力を必要とする」会員間の合意形成が構築されているのかとの事業に対する声明文からの「問いかけ」です。これは、ロータリーで実施されるすべての社会奉仕プロジェクトにおいて確認されなければならない事項です。

クラブが事業を展開し一定の効果を確保するためには、複数年の継続的活動を容認すべきとの意見がありますが、ロータリーの社会奉仕の基本原則に照らすならば、地域社会のニーズを反映した奉仕プロジェクトを毎年度立案し、プロジェクトの質を向上させ、インパクトのある成果を生み、活動からもたらされたポジティブな長期的変化を地域社会にもたらすこと。およびベテラン会員から毎年入会する新会員すべての会員基盤によるプロジェクトへの合意と協力によるプロセスへの

取り組みが期待されています。そのプロセスの取り組みが実施されないままの事業への取り組みは、地域社会に成果のあるプロジェクトであったとしてもクラブの成長を望むことができません。声明文の文脈から一応、継続事業は容認されていますが、補助金対象の事業はロータリーの社会奉仕の基本原則による事業を対象としていることをご理解いただきたいと思います。

最後に、運用を開始した「継続事業ガイドライン」について概略の説明をいたします。連続して最長3か年度を限度として継続事業を実施できる制度です。継続的に取り組まなければならない必要性の確認。継続期間の確認。必須ではありませんが持続可能性の確認を「継続事前確認シート」において申請していただきます。単年度の実施事業を申請するクラブとの公平性を考慮し、継続事業として認定された事業は、3か年度連続の場合にその後3か年度、2か年度連続の場合にはその後2か年度、同一の継続事業として地区補助金の申請をすることはできません。もし、認定を受けずに結果として連続して同一事業を実施する場合は、富山年度を起算年度として遡及し、連続して最長3か年度まで認定いたします。詳細につきましては財団委員会にお問い合わせください。

第 2560 地区 2025-26 年度 3 月末 会員数報告

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2025年 7月1日	3月末 会員数	うち女性	増減
第1分区 (9クラブ)	3	-	378	378	46	0
新発田	3	31.2%	90	93	2	3
村上	4	23.7%	38	38	8	0
水原	4	31.4%	34	34	3	0
中条	4	100.0%	48	47	3	-1
新発田城南	4	27.0%	38	37	5	-1
豊栄	2	36.8%	21	20	2	-1
新発田中央	4	22.7%	44	44	5	0
中条胎内	3	51.3%	39	39	11	0
村上岩船	4	26.9%	26	26	7	0
第2分区 (9クラブ)	5	-	453	475	38	22
新潟	5	35.4%	74	79	3	5
新潟東	3	17.3%	66	75	12	9
新潟南	4	37.7%	114	114	9	0
佐渡	2	66.7%	3	3	0	0
新潟西	4	64.9%	53	56	4	3
佐渡南	4	14.0%	43	43	4	0
新潟北	4	28.6%	37	41	0	4
新潟中央	4	44.4%	24	27	1	3
新潟万代	3	56.8%	39	37	5	-2
第3分区 (5クラブ)	3	-	97	100	10	3
新津	3	60.0%	16	15	1	-1
村松	4	61.9%	19	21	2	2
白根	4	29.4%	32	34	2	2
新津中央	4	42.3%	25	25	5	0
阿賀野川ライン	3	60.0%	5	5	0	0
第4分区 (11クラブ)	4	-	343	339	33	-4
三条	4	17.9%	54	55	1	1
燕	3	39.5%	41	38	3	-3
加茂	3	14.8%	27	27	4	0
三条南	4	25.6%	38	39	3	1
分水	4	60.0%	33	34	6	1
見附	2	10.0%	20	20	1	0
吉田	3	0.0%	23	22	3	-1
三条北	4	26.7%	46	45	4	-1
巻	3	9.5%	22	21	2	-1
田上あじさい	禰	16.7%	5	5	2	0
三条東	3	30.3%	34	33	4	-1

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2025年 7月1日	3月末 会員数	うち女性	増減
第5分区 (7クラブ)	4	-	283	293	30	10
長岡	4	61.7%	43	47	5	4
柏崎	4	62.5%	45	48	0	3
長岡東	3	32.2%	57	59	7	2
柏崎東	3	19.5%	38	40	4	2
栃尾	4	50.0%	19	18	1	-1
長岡西	3	25.0%	46	44	3	-2
柏崎中央	3	27.0%	35	37	10	2
第6分区 (6クラブ)	3	-	117	124	13	7
十日町	3	28.2%	38	38	7	0
小千谷	3	17.2%	25	29	3	4
雪国魚沼	3	65.4%	25	26	2	1
十日町北	2	0.0%	9	12	1	3
津南	4	36.4%	12	11	0	-1
越後魚沼	3	50.0%	8	8	0	0
第7分区 (7クラブ)	3	-	305	316	23	11
高田	3	39.4%	63	67	3	4
直江津	3	31.2%	74	76	7	2
新井妙高	3	54.1%	36	37	1	1
糸魚川	3	95.3%	45	43	3	-2
高田東	5	51.6%	30	31	2	1
糸魚川中央	3	58.8%	30	34	3	4
越後春日山	3	82.1%	27	28	4	1

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,976 人
3月末会員数	2,025 人
女性会員数	193 人
純増減会員数	49 人
My Rotaryアカウント登録率	39.1 %

※ 1 月末会員数の訂正  
 分水 RC 36 人 (うち女性 6 人) ⇒ 35 人 (うち女性 6 人)  
 第 2560 地区 2,032 人 (うち女性 193 人)  
 ⇒ 2,031 人 (うち女性 193 人)

※ 2 月末会員数の訂正  
 分水 RC 36 人 (うち女性 6 人) ⇒ 34 人 (うち女性 6 人)  
 第 2560 地区 2,041 人 (うち女性 195 人)  
 ⇒ 2,039 人 (うち女性 195 人)

地区主要行事予定

2026年4月20日現在

年	月	日	行 事	会 場	
2026年 (R8) 室賀年度	5月	青少年奉仕月間			
		9	(土)	三条東RC創立20周年記念式典	ジオ・ワールドVIP
		10	(日)	ベーシックラーニング	長岡市社会福祉センター トモシア
		16	(土)	十日町RC創立70周年記念式典	あてま高原リゾート ベルナティオ
		16~17	(土~日)	ローターアクト地区協議会	ホテル日航新潟 Befcolばかうけ展望室
		23	(土)	富山年度 クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー (旧:地区研修・協議会)	NASPAニューオータニ
		28~29	(木~金)	青少年交換学生 九州研修旅行	福岡県
		29~30	(金~土)	山の会	国上山(燕市)
		29~31	(金~日)	全国青少年交換研究会	福岡県
	30	(土)	防減災セミナー	長岡市	
	6月	ロータリー親睦活動月間			
		2	(火)	全国次期米山記念奨学委員長対象第2回セミナー	ビジョンセンタグランデ浜松町
		6	(土)	第1回米山記念奨学生親睦交流会	ピア万代
		13~17	(土~水)	RI国際大会	台湾・台北
		14	(日)	第24回台湾RI囲碁大会	敏盛智医城
		20	(土)	第4回派遣学生オリエンテーション	ホテルオークラ新潟
		20	(土)	派遣学生壮行会、受入学生お別れ会	ホテルオークラ新潟
		20	(土)	ローターアクト地区大納会	ホテルイタリア軒
		21	(日)	ロータリー財団 学友会総会	ホテルイタリア軒
		24	(水)	富山年度危機管理委員会	ホテルオークラ新潟
27		(土)	室賀年度感謝の集い	サルナート吉運堂	

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
分水	三浦 麻美子	2025.11.01	(株)えはら	エース薬局 部長	医薬品販売
分水	石田 理絵	2025.12.05	スナック 梨花	店主	飲食業
新潟西	玉木 伸太郎	2026.03.05	(株)Gークリエイト	代表取締役	自動車販売
高田	竹田 悟	2026.03.27	平安セレモニー(株)	プライダル事業部 / HR事業部 部長	総合結婚式場
雪国魚沼	岡 篤史	2026.04.01	高橋建設(株)	専務取締役	建設業
直江津	二羽 晋太郎	2026.04.01	日本生命保険(相) 長岡支社直江津営業部	営業部長	保険業
小千谷	青柳 拓	2026.04.02	(株)青柳工務店	代表取締役	建設業
長岡	前田 剛志	2026.04.07	日本生命保険相互会社	長岡支社長	生命保険業
三条	津野 勇司	2026.04.08	東北電力ネットワーク(株) 新潟県央電力センター	所長	電力事業
新井妙高	丸山 佳祐	2026.04.08	(有)TMK SERVICE	代表取締役	美容業
高田	中島 睦彦	2026.04.10	上越信用金庫高田中央支店	支店長	信用金庫
長岡	杉山 浩一郎	2026.04.14	第一生命保険(株)	長岡支社長	生命保険業
水原	和田 好史	2026.04.15	第一生命保険(株) 水原オフィス	営業部長	生命保険



第1地域 ロータリー会員増強コーディネーター補佐 花田 勝彦（五所川原 RC）

「花田さん、ロータリーの件なんだけどさ、来年、何か役割決まってる？」

田中久夫 RMC から ARMC の打診のご連絡をいただいたのは、ガバナー年度が年度半分終わる 2024 年の大晦日のことでした。我が 2830 地区は、その年の 1 月の RI 理事会で、2026 年 7 月 1 日に会員数が 1,100 名に達しなかった場合は、隣接地区と合併することに同意するという決議がなされ、まさに緊急事態でした。地区として会員増強の崖っぷちに立たされていたガバナーですから、そのような経験が、良い意味で他の地区にも還元できるのであればと考え、ARMC の就任を承った次第です。

会員増強にとって大切なことは、クラブが魅力的であり、クラブの会員が地域で一目置かれる存在であること、そのような人が多く集まるクラブには、入会を希望する会員候補者が自然と多く現れるはずであると考えています。ロータリーを自分磨きのための適切な場所とするためにも、自分自身の一挙手一投足が見られているという意識をもち、立ち振る舞いや話し方にも気をつける。また、楽しくなければロータリーは続きませんから、仲間を増やし、大いに親睦を深めることも大切です。本来は、このようにして自然に会員が増えていくことが望ましいと思っているのですが、それも今のままの地区があってこそ、という面もあります。2013 年の規定審議会で、地区の最低会員数を 1,200 名から 1,100 名に修正してもらうことに成功したのは、ほかならぬ 2540 地区と 2830 地区です(決議 13-109)。その 2 つの地区が、今 1,100 名を下回ることで地区合併の危機に立たされています。ここは何としても乗り越えていきたいところです。

会員を増やすための具体的な方策としてまず考えられるのは、衛星クラブの設立でしょう。8 名の会員候補者を集めて、従来型のクラブではできない特徴あるクラブを設立することができることから、多くの地区で取り組んでいることと思います。既存のクラブ内で会費を抑え、会員数を増やす方法として、2830 地区で昨年以來取り組んできたことは、クラブ独自の正会員の種別を多様化することです。ファミリー会員、後継者会員、シニア会員、特別会員など、これまでは会費負担が大きく、正会員へのハードルが高かった方を会員としてお迎えできる方策の 1 つです。導入に当たっては、クラブ細則を改正する必要があるため、クラブ細則の改正案を作成しました。

My ROTARY のラーニングセンターの左上「ユーザーメニュー」に「学習トピック」という項目があります。下の方にスクロールして、「もっと読み込む」をクリックして進んで行くと「柔軟性を取り入れたクラブ細則の実例」というタイトルで、細則案を掲載しています。RI 日本事務局の尾畑さんにアップしていただきましたので、導入を検討しているクラブは是非ご参照下さい。



<https://learn.rotary.org/members/share/asset/view/137278>

アクセスには My ROTARY へのログインが必要です。



## 第2地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 古川 静男（松本西南 RC）

ロータリー財団では、日本から海外へ留学する学生のためにグローバル補助金を利用した奨学金制度を準備しています。このグローバル補助金による奨学金を利用できるのは、ロータリーの7つの重点分野のいずれかに該当する分野を専攻することが条件となっており、①平和構築と紛争予防、②疾病予防と治療、③水と衛生、④母子の健康、⑤基本的教育と識字率向上、⑥地域社会の経済発展、⑦環境のいずれかに該当する必要があります。

グローバル補助金による奨学生の数は、2010年から2023年の13年間で合計421名(年平均32名)となっています。コロナ禍で一時減少しましたが、直近5年間では、

令和6年度50名、令和5年度49名、令和4年度39名、令和3年度37名、令和2年度82名となっていました。グローバル補助金による奨学金制度は、2013年に「未来の夢計画」としてロータリー財団の補助金制度が大幅に変更されて誕生したのですが、それ以前は「国際親善奨学金制度」というものがあり、7つの重点分野に限定されずに、音楽、芸術、文学、建築、エンジニア、自然科学、宇宙工学、経済、法学、心理学、IT等、様々な分野の学生が対象となっていました。この「国際親善奨学金制度」は1947年からスタートしましたが、2013年までの65年間で延べ8,299名(年平均128名)の留学生在がこの奨学金を利用していました。国際親善奨学金制度がなくなり、新たに「グローバル補助金」と「地区補助金」が誕生しましたが、「グローバル補助金」は7つの重点分野により限定されたことや、「地区補助金」は各クラブでの利用が進んだため、奨学金に回る金額が少なくなり、日本からの海外留学生は以前に比べて大幅に減少しました。

この状況を憂慮した日本ロータリー学友会(元留学生で組織する地区学友会の連合体)は、2024年11月に開催された総会において、財団奨学生を増やしてほしいという「提言」を発表しました。この「提言」では、「日本や世界の未来を担う意欲ある日本の若者に、グローバル補助金の7つの重点分野に限らず、地区補助金を利用して、他のあらゆる分野を学ぶ学生に奨学金を与えて欲しい」というもので、地区補助金を利用した奨学生支援を訴えていました。

日本ロータリー学友会が2024年と2025年に34地区に実施したアンケート調査によりますと、2013年から2023年までの11年間に、地区補助金を利用して海外へ留学生を送り出した地区は34地区中16地区(1地区未回答)あり、総数は194名(年平均18名)に留まっていた。約半分の地区が、地区補助金を利用した奨学金制度を利用していないことが判明しました。アンケートでは、利用していない理由として、「募集可能を知らなかった」「検討したことがない」「重点分野が要件と思っていた」という回答と共に、「地区補助金をクラブ補助金等、他の目的で使用しているため奨学金として回せる金額がない」という回答が多くみられました。

昨今の日本人留学生の実情をみますと、円安が進み、渡航費や滞在費など経済的負担が大きくなってきています。また、海外では留学生の授業料が高く設定されていて、アメリカ約1.5倍、カナダ約2倍、フランスなどは約15倍にもなっており、留学環境は年々厳しさを増している実情があります。資金調達でも「自費・仕送り」が大半を占めており、奨学金の利用が極めて少ないということで、経済的に余裕のある家庭の子供しか留学出来ないという状況が見受けられるようです。日本の学生により国際感覚を磨いてもらい、世界で活躍するリーダーとなってもらうためにも留学は貴重な体験であり、ロータリーの力で様々な分野の国際人を養成していくことはより重要性を増しているのではないかと思います。当地区では、現在地区補助金を利用して留学生を送り出していないのですが、より多くの学生がロータリー財団の奨学金を利用して留学できる方法を検討していくことも重要ではないかと考える次第です。





### 第3地域 ローター財団地域コーディネーター補佐 吉田 知弘（福岡東 RC）

この度、全国のロータリアンの皆様へ広くレターを差し上げる機会を賜り、大変ありがとうございました。私は、第3地域ローター財団地域コーディネーター補佐として、九州4地区の担当を仰せつかっております。会員の皆様からの寄付増進を図り、ローター活動の礎を創ることを役割と認識し、微力ながらも貢献できればと願っております。そのような立場から、ローターの諸活動に関して思うところを少しだけお伝えしたい、本稿を寄せます。

ローターの発展は、しばしば3つの要素（奉仕プロジェクト、公共イメージ、会員増強）のスパイラルによって支えられると説明されます。たしかに、①意義深く効果的な奉仕プロジェクトにより社会をよりよい状態へと導くことができれば、その実践を通じてローターが好意をもって社会に認知されます。②その好感度の高まりは、パートナーシップとエンゲージメントの機会を広げると同時に、メンバーの自尊心と積極的な参加意欲を高め、結束力の高まりを通じてクラブとローターを一層魅力的な存在へと向上させます。③このような成果の集積により、クラブ拡大と会員増強もよりよく達成されます。

この3つの要素が好循環のスパイラルを描き出す様子をイメージすると、ローター活動にも取り組む意欲も自ずと増すことでしょう。その一方で、意義あるローターの諸活動がローター財団への寄付によって支えられていることを忘れてはなりません。その意義をご理解いただき、是非とも寄付の増進にご理解とご協力を賜りたいと願っております。

さて、こうしたローターの重要な取組の一つである「ローター平和センター」をご紹介させてください。これは平和学に優れた大学の中に「ローター平和センター」を設け、世界からの留学生（ローター平和フェロー）を招き入れて、積極的な平和構築のエキスパート（Peace Builder）として養成し、そのスキルを高めて世界に送り出してゆく活動です。2002年にスタートし、現在では世界に8か所、うち1つが日本の国際基督教大学に設置されています。

現在、注目を集めるイランのホルムズ海峡の封鎖問題をはじめ、国際的な武力紛争が随所で頻発しており、国際情勢は極めて不安定で危機的な状況にあります。こうした国際情勢をみるにつけ、平和への取組の重要性を思わずにはられません。平和構築の専門家を養成する平和センターの取組は、一層その重要性を増していると思われま

国際基督教大学の平和センターのことは、これを支えるホストエリア（首都圏7地区）の外に出るとなかなか周知されない状況にあることは否めません。よくご存じの方もそうでない方も、本稿をご覧くださいましたら、是非ネットの検索エンジンで「ローター平和センター」を検索してみてください。その充実した取組の内容をご確認いただけることと思います。





ご登録はこちら  
期限：4月30日まで

## 1 台北国際大会 ブース出展決定 & 分科会開催時刻変更

6月13日から17日まで開催されるロータリー国際大会(台北国際大会)において、友愛の家でのブース出展が正式に決定しました。ブース番号は「106番」です。会場マップ等の詳細が公開されましたら、改めてお知らせいたします。

ご来場いただいた方には、数量限定で記念グッズを配布予定です。当事業と米山学友の活躍を広く発信する貴重な機会となります。ご来場をお待ちしています。

また、6月15日(月)に開催が決定している当財団の分科会の時刻が変更となりました。開催時刻は**11:00~12:00**です。ご注意ください。

6月12日(金)には、台湾米山学友会主催の歓迎懇親会が、上海鄉村餐廳 承德本家にて18時30分から開催されます。登録期限は**4月30日(木)**まで。詳細はQRコードからご確認ください。

### 台湾米山学友会主催 歓迎懇親会

- 6.12 2026年6月12日(金) 18:30~
- 上海鄉村レストラン 承德本家
- 参加費：NT\$1,600(¥8,000)/名



### 友愛の家 ブース出展

- 6.13 2026年6月13~17日 09:00~18:00 ※17日のみ-14:00
- 6.17 台北南港展覽館(TaiNEX) **ブース番号 #106**
- ※お立ち寄りいただいた方には記念品をお渡します(数量限定)

### 国際大会 分科会

- 6.15 2026年6月15日(月) **11:00~12:00** ※時間が変更になりました
- 分科会タイトル 広がる基盤・つながる世界
- ~ロータリーとともに歩むロータリー学友の実践~

登壇者(米山学友)



林岳毅さん  
RID 3461 台北文中RC  
台湾米山学友会 常務理事  
(台湾/2000-01/札幌清田RC)



フィンティミーハンさん  
ベトナム南米山学友会 副会長  
(ベトナム/2001-02/金沢みなとRC)



朴貞子さん  
RID2750 東京米山学友会RC  
第4回米山学友による世界大会  
再会in関東 実行委員長  
(中国/2006-08/祥和田RC)



バンバット、トウメンデルゲルさん  
RID3450 フレーRC  
モンゴル米山学友会 会長  
(モンゴル/2014-15/大阪東RC)

## 2 2026 学年度奨学生採用とオリエンテーション開催

2026 学年度の奨学生は 969 人となりました。新規採用者 682 人、継続者 287 人です(4月6日現在)。国・地域別では、中国 32.4%、ベトナム 13.9%、韓国 12.6%、ミャンマー 6.5%、インドネシア 5.0%、ネパール 3.8%、モンゴル 3.7%、マレーシア 3.5%、台湾 3.2%、スリランカ 2.4%の順となり、全 54 カ国の採用となりました。プログラム別では、学部・修士・博士課程奨学生が 914 人(学部 473 人、修士 282 人、博士 159 人)、地区奨励奨学生が 25 人、クラブ

支援奨学生が 12 人、海外応募者対象奨学生が 17 人、海外学友会推薦奨学生が 1 人となっています。4 月末までに新規採用者に対して各地区でオリエンテーションが開催されます。オリエンテーションは、奨学生とカウンセラーが出会い、奨学生としての義務やロータリーについて理解してもらう場です。確約書に署名をした後、正式に米山奨学生となります。新たな奨学生たちを、どうぞ温かくお迎えください。

## 3 寄付金速報 — 今年度も残り 2 カ月半 —

前年同期比

# -1.8%

普 +1.0% 特 -3.2%

3 月末までの寄付金は前年同期と比べて 1.8%減(普通寄付金: 1.0%増、特別寄付金: 3.2%減)、約 1,950 万円の減少となりました。

当月は、1,000 万円の寄付を含む大口寄付が 3 件あり、3 月単月の寄付額は 2000 年度以降初めて 7,000 万円を超えました。皆さまからのご支援に厚く御礼申し上げます。引き続き、当事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 4 当財団への寄付により紺綬褒章を受章

長年にわたり、当事業に多大なるご支援を寄せてくださっている第 2550 地区宇都宮 90RC の飯村 慎一氏が、2025 年 10 月 25 日付で紺綬褒章を受章しました。

3 月 26 日の同クラブ例会にて伝達式が行われ、出席した当財団の若林紀男理事長から紺綬

褒章に付する飾版が伝達されました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付し、その功績が顕著な個人または団体に対して天皇陛下より授与される褒章で、当財団は 2018 年 9 月に紺綬褒章の公益団体認定を受けています。心よりお祝い申し上げます。

## 5 奨学期間を終え、新たなステージへ

卒業の時期を迎えた 3 月、全国各地で米山奨学生の奨学期間終了に伴う式典が開催され、多くの米山奨学生が新たなステージへと歩み始めました。今回は、国際ロータリー第 2510 地区の様子をご紹介します。

3 月 8 日、札幌市内で米山記念奨学生終了式が開催され、米山奨学生 17 人をはじめ、ロータリー会員 40 人と米山学友 2 人が出席しました。式は、当財団の嵯峨義輝理事の挨拶で始まり、奨学生には終了証書が、カウンセラーには感謝状がそれぞれ授与されました。その後の歓送会



では、奨学生とカウンセラーがこれまでの思い出や感謝の言葉をスピーチし、会場は心温まる雰囲気になりました。また、北海道大学に在籍する奨学生が、同大学史上初となる外国人留学生の首席卒業を果たし、卒業論文でも最優秀賞に輝いたことが報告されると、会場からは大きな拍手が送られました。札幌モーニングRC

に所属し、この日出席した米山学友の鄭子龍<sup>ジョンジャリョン</sup>さんは、「卒業した米山奨学生たちが、それぞれの道で国際社会に貢献してくれることを期待しています」と、後輩たちへエールを送りました。

## 6 マレーシア米山学友会 創立 10 周年記念総会開催

3 月 15 日、マレーシア・スレンバンにてマレーシア米山学友会の創立 10 周年記念総会が開催されました。当財団からは若林紀男理事長が出席したほか、日本からも多数のロータリー会員が集結。また、オンライン配信を通じて各地の米山学友も参加し、総勢 50 人が節目を祝いました。



式典は、会長の黄建榮さん（1998-2000/室蘭東RC）の挨拶で幕を開け、若林理事長が祝辞を述べた後、活動報告や会計報告が行われ、終始和やかな雰囲気の中で進行されました。

総会に先立ち、前日にはスレンバン博物館を訪問した後、現地の老人ホーム施設を見学。高齢化社会という課題に直面するマレーシアの民間施設を支援するため、同学友会から約 7 万円の寄付金が贈呈されました。夜には晩餐会が開催され、マレーシアの米山学友たちが伝統衣装「バティック」を、海外からの参加者もそれぞれの民族衣装を身にまとい、華やかな雰囲気の中で交流を深めました。

2016 年の学友会設立時に 39 人だった会員数は 10 年を経て 100 人を超える規模へと成長しており、マレーシア米山学友会のさらなる飛躍が期待されます。



民族衣装に身を包んで参加